

第9回新城市福祉従事者支援施策推進会議会議録

日 時 令和5年2月16日(木) 午後6時～午後7時45分

場 所 災害対策本部室3

(座長、あいさつ)

こんばんは。福祉フェスからほぼ2ヶ月過ぎてしまったということで、忘れたというか、いろんな感動があったけど薄れてきたという状態の今日かもしれない。でも、初めてのことを無事に終えたということでは、みんなでよかったと喜び合いたいと思う。と同時に初めてだったので、勘弁されることもあるかもしれないが、2回目、3回目をやっていくとするならば、どういうふうにしてやっていくか、或いはどういふところを気をつけなくてはいけないかというのは、この先の課題になると思っている。

1. 推進施策推進施策評価シートについて

第2回の推進会議でご説明させていただいているが、第1回福祉フェスの評価、検証を行うために「推進施策評価シート」を各実行委員において作成しましたので、ご説明させていただきます。3チームの説明が終わった後にご意見をいただきたいと思う。

(魅力発信チーム)

魅力発信チームの施策の内容としては、福祉フェスの展示室内の各コーナーの担当ということで挙げさせていただいた。事業概要としては写真展、条例のパネルの展示、福祉何でも相談所では、地域包括支援センターが主に結カフェの紹介をした。また、里親制度普及啓発コーナーを新城児童相談所が、男女共同参画の啓発のパネル展示を市民自治推進課が行った。目標としては、福祉についての魅力を広く伝え、福祉に関心を持ってもらう。実施方法としては、写真展やパネル展示、各コーナーでの啓発を通して身近な福祉について知ってもらう、としている。現状分析として、必要性については高いとし、福祉についての情報発信機会は必要と思う。適切性についても高いとし、福祉フェスは大勢の人に情報発信するには最適と思う。有効性につきましては、介護・高齢・福祉・障害・保育という福祉従事者が一同に関わることができたのは多職種交流という点で効果があったと思う。課題については、福祉従事者の紹介まではできなかった、写真展の募集周知が不十分だった、ということが挙げられる。実績について、展示室に入っていた数が360人。従事者としては、魅力発信チームが11人、里親啓発が4人、市民自治推進課が4人、福祉なんでも相談が3人となっている。準備片付で社会福祉協議会が4人、介護ネットが6人となっている。多くの方に準備、片付けをお手伝いしていただき順調にできた。成果として、来場者が、お年寄りから学生・子ども、障害のある方、介護者、福祉や保育、健康づくり関係者などさまざまな人や立場の人が立ち寄ってくれたのはよかった。来場者の声として「素敵な写真が一杯。普段見慣れない写真がみれた」「里親として子育てするときの心配なことなどの具体的な質問があった」「福祉何でも相談は相談件数はなかったが、結カフェの展示は関心を持って見ていった」「男女共同参画の4コマ漫画の展示に興味を持って見ていた」など各コーナーでの関心は高かった。」と担当していた職員からも聞き取った内容になっている。次に評価、成果達成度だが、初めてのフェスとしては成果があったと思う。貢献度についても、福祉と健康という市民に身近なテーマで関心は高かったと思う。評価としては継続実施とし

た。福祉に関心をもってもらうことはできたが、福祉の仕事や事業所などの紹介や魅力発信には至らなかったと感じている。

コメントとして、講演会が終了した後に展示室に立ち寄る人も多くいた。その時には片付けを始める時間だったので、スケジュールの見直しが必要と感じた。また、ボランティア団体の人が写真を出したかった、という意見もあったので、募集についての準備や周知が課題だと感じた。

(連携推進チーム)

施策内容としては、研修会の前に市から令和元年から合同研修までの流れを説明（約5分）。その後、合同職員研修（講師の講演会 50分＋市の取り組み、地域活動紹介 20分＋取組への講師のコメント・質疑応答約 15分）を実施した。

また、事業概要として、改正社会福祉法で明文化された「地域共生社会」の実現に向け、有識者による研修を行い、様々な立場で福祉に関わる福祉従事者とその周辺の方々を対象に、共通理解を深めるとした。現状分析としては、必要性については、高いとした。理由は、複雑化した支援ニーズに対応するため、福祉従事者が地域に目を向け、地域の活動も注目されるということでニーズが高いと考える。適切性については、まだ高齢・障がい・子ども・生活困窮全ての支援者及び地域との連携というところで、課題があるというところと、当日の講演会の役割分担に課題が残っている。有効性としては、福祉従事者は地域での活動を知り刺激を受ける。地域では地域共生社会の考えを実践する意識を高めるということでアンケートでもそういった意見もあり、高いとした。課題については、日程が決まっている中での講師との調整や、地域共生社会の理念について全く知識のない人にどこまで理解してもらえるかが今回及び今後の課題と考えている。来年度については、合同研修と階層別研修の実施を考えている。また、今年の反省として、ポスター等の印刷製本費がなかったため、来年度については予算にあげている。事業実績としまして、國信先生の講演会、市の取り組みと地域活動の紹介、クロストーク、会場からの質疑応答と講評で90分より少しオーバーした。それをなるべく短縮して詰め込もうとしたため、本来なら地域の活動については、それぞれの実践者の方に話をしてもらうべきだったが、時間の短縮のために市で報告してしまった。達成度としては、地域共生社会というものについての関心が高まった。施策の貢献としては、制度を越えた人と人とのつながりや地域活動について理解が深まったと思っているため、高いとさせていただいた。総合評価としては、改善・見直しが必要と判断した。また、90分の講演会は話を聞くだけならいいが、実践発表など入れると時間が足りなかったというのが反省点。最後、アンケートでは、次回の講演会で再度「地域共生社会」を学びたいという声が多かった。次回のテーマをどう展開していくかが課題だと思っている。また、進行の仕方や講演会の構成など気づきがいくつかあったため、次回はより良い講演会にしたいと考えている。

(事業所支援チーム)

施策内容としては、永年勤続に向けての表彰ということで、キラリしんしろ福祉賞として表彰を行った。事業概要として、市内の福祉サービス事業所に継続勤務 5年以上の従事者で、各事業所が推薦する職員に対し労いと激励を込めて表彰し、今後の福祉人材の流出を防ぐ。事業目標として、現場の思いに対して、市がバックアップしていることを見える化し、今後の励みとして福祉従事の定着を目指す。実施方法として、しんしろ福祉フェスと同時開催し、市長及び大勢の仲間から祝福いただく。現状分析として、必

要性のところは普通とした。福祉施策に対して市が応援している姿勢は必要であるとする。適切性のところは、高いとした。市長から表彰状を渡されることに意味がある。また、市長から直接お言葉を頂けたことで励みになると考える。有効性としては、高いとした。受賞の立場から勤務意識の向上が期待される。課題としては、事業所の推薦基準の明確化と人数、推薦書様式、記念品の妥当性。授賞式の時間設定、インタビュー内容が適正であるかが課題と考える。アンケートにも、本人紹介とインタビューに工夫が必要である、インタビューが長いといった意見があった。また、事業所名の誤りなど高校生との十分な事前打ち合わせが必要だったと感じている。事業費としては、令和4年の執行額は10万1490円、令和5年度予算額は継続実施ということで、16万8,300円をあげている。事業実績として、15人の従事者に対して、市長から表彰状と記念品7,000円相当、菓子盛り、いいじゃん券を贈呈。被表彰者や事業所をプロジェクトにて紹介し、インタビューを実施した。成果として、しんしろ福祉フェスと同時開催だったため、関係者多数の中での表彰により激励感と高揚感が大きかったと思う。評価・検証として、成果達成度として一定の継続意欲や励みへの効果は期待できると思う。施策貢献度は普通として、ここから勤続年数の延伸効果については見守る必要があると思う。総合評価として、改善や見直しが必要と思う。推薦基準の絞り込みについては要検討。それに伴い、人数、記念品、職種による順番など公平な表彰基準になるよう改善を要するのではないかと思う。事務局のコメントとして、被表彰者の中に市の職員も含まれることから、公務への報償ラインについて確認を要すると思う。

(質疑応答)

(委員) 事業者として高齢者のデイサービスをやっているが、経営的にかなり厳しい。そういう中で、福祉従事者の賃金を上げたりして、守っていくのが急務だと思うし、そこに特化して力を入れないといけなのではないかと思う。表彰されることはいいことだと思うが、それで本当に守れるのか、本当にそれをやるべきなのかと悩んでしまう。

市長マニフェストと言うのなら、相当額の予算をつけてもらわないと効果が出ないと感じている。

(委員) 第1回目としては多くの入場者もあって大盛況だったと思うが、福祉フェスはあくまで、その年にやってきたものを発表をする場であって、福祉フェスで条例の推進とか執行を完結してしまうのは余りに安易な考えだと思う。フェスの前段階、平素の事業として条例の施策や、具体的な施策を組み入れて実施し、それで成果を出していくことが、福祉従事者がやりがいを持って働けるということに結びついていくのではないかと思う。

(委員) 幅広く市民の皆さんに、こういうことで働いてらっしゃる方がいらっしゃるということを知らせるという点では目的を達成することができたと思う。ただ、保育士という職種は非常に給与が低いということを言ってみえる方がいた。あんな表彰だけで事を濁してもらっては困るという意見も聞いた。モチベーションを高めるためには給与面や待遇面などをきちんとやっていくことが必要ではないのかと思う。フェスはひとつのやり方かもしれないが、その基本的な部分はもう少し考えていかなければならないと感じる。

(座長) この国は福祉の仕事をする人たちの待遇を上げるとか、或いは現場の条件が良くするというこ

とにあまり力を入れずにやってきた。人の命や暮らしに関わることに、お金をかけるのか、かけないのかというところへ行き着く。介護保険の事業所も全国では撤退するところが多い。そういったぎりぎりのところへ来て私たちは、まちづくりをしようと掲げてしまった。働いておられる方の生活が豊かになるとか、或いは働く条件が良くなるとかにはならないが、みんなでそのことを一緒に考えたり、みんなにとって大事なことを共有していく場を作っていくのがこの役目ではないかと思う。小さいことかもしれないが、一つずつ積み上げていくことが大事だと思う。

(委員) 国に声を届けて欲しいと思う。福祉従事者の待遇改善や人手不足の問題をなんとかしてほしい。経営者や経営に関わるような人たちが集まって問題点とか要望とかを話すべきだと思う。職員の待遇を良くするためには会社組織の上層部が出てこないと進んでいかない気がする。何か効果を出すようなものをするには予算が要ると思う。市長に入ってもらって、何が必要なかを決断してもらうことが必要だと思う。市長の決断なしには何も進まないと思う。

(座長) 条例を作る前に、給料を上げることができるのかという話があったが、とても無理なことだという話だった。ある程度国が作った制度の中で一つの自治体ができることと、できないことがある。

(委員) 國信さんが地域共生の話がされたが、厚生労働省がなぜ地域共生を推進するのか。住民が助け合って生きていくのは、いいことだが、厚生労働省がやることなのかと思う。それよりも、年金問題とか福祉、介護の問題を解決して欲しい。地域共生は個々に任せればいい。

(委員) 次回の合同研修は、ただ聞くだけではなく、他の人と意見を交わしたりする形の研修がいいと思う。

(委員) 経営する人たちの学ぶ場所というのは絶対に要ると思う。その現場が長かった人が管理者になるということが多いが、福祉の専門職イコール経営者ではない。また、セーフティーネットとして、福祉や介護を支える人材を確保することは絶対必要。そうしないと今後立ち行かなくなる。

(委員) 人間関係が悪かったりしたら辞めて他の業界に行っていたかもしれない。今よりも給料のいい職場に揺れ動いてしまう。しかし、勤続年数が10年以上経ってくると責任感を感じるようになり、辞めることが何か裏切ってしまうような気もしてとどまっているというのが正直なところ。

2. 福祉条例実施スケジュールについて

福祉条例第8条の逐条解説に示されている施策の実施スケジュールを示した資料により、現在の進捗状況を各実行委員からご説明させていただく。

(魅力発信チーム)

丸がついているところが実績。誰でも参加できるイベントで周知、福祉職の魅力を伝える写真展、新城市

福祉・介護フェア、新城市福祉・介護市民フォーラムに丸を付けている。また令和5年度には、これに加え中学生が福祉の職業はどんなことをしているのかを紹介する動画の作成費を予算化している。

(連携推進チーム)

「ほいっぷネットワーク」の利用拡大については、昨年度ぐらいから、障害分野の方にも登録を広げており、次年度以降も広げていきたいと思っている。あと、合同職員研修を本年度行った。来年度も予算化している。また、雇用者、管理者、リーダー等階層別の研修について予算化している。行事・イベントに関する作り物を共通利用できる仕組みをつくる、については現状を確認した上で考えていきたい。

(事業所支援チーム)

永年勤続表彰ということでキラリしんしろ福祉賞については、来年度も継続実施し予算化している。助成に関しては愛知県等でも同様な助成があったりするので、一度どういった助成があるのかを整理したり、何が有効な助成なのかを来年度実行委員会でしっかり考えていきたい。

(質疑応答)

(委員) この資料に沿って、令和5年度の予算化したということか。

⇒現在、予算要望している。

(委員) 職員研修のやり方はいろいろあると思う。雇用者や管理者、リーダーの階層別の研修ができればいいと思う。社協で行っている福祉のイベントと魅力発信チームと一緒にできたらいいと思う。また、表彰については、今回のような場所で行うのがいいのではないかと思う。

(委員) ほいっぷネットワークの利用拡大について、やるのはいいが事務的な手間が増えてしまっている。情報共有もいいが、ある程度効率が良いものにして欲しい。

(委員) 就職祝い金の予算をつけてほしい。今働いてる方だけでなく、これから働きたいと思っている方も対象にしたらどうか。

3. 次年度の推進会議及び実行委員の体制について

(事務局)

・推進会議は現在、諮問機関ではないが、会議の中で盛り上がってきた意見を上に持って行くという位置づけとしてあってもいいと思う。

・月1回の会議では、委員のみなさんにご負担をかける。進捗管理、検証などポイント、ポイントで皆様にお諮りしたいと思っている。今考えているのは四半期ごとに開催し、実行委員から出た施策を検討、確認いただきたいと思っている。

・フェスや福祉祭りを社協が行っているところが多い。事務局の反省点として、準備不足、機動力のなさ、予算を含め柔軟性がない、ネットワークが張られていないといったことが挙げられる。これをクリアするのに、委託という予算で一括してお願いする形がある。実行委員会という組織を作って、そちらにお願い

いしていくこともできないことはない。

・実行委員をどのような組織にすればうまく事が運んでいくのか悩んでいる。皆様からご意見をいただきたい。

(委員) 推進会議は諮問機関的役割に戻せないのかと思う。実行委員会については、今回のような連合体のような形で動いていくものだろうと感じている。民生委員が入っていなかったが、問題はなかったのではないかと思う。

(委員) 推進会議は、条例に基づいて政策的なことをしっかりと議論する柱として必要ではないか。また、実行委員会は、イメージ図の通り3つに分けた形でいいと思う。集まれる人たちで組織する個別の実行委員会などで機動力を強めていくことが必要ではないかと感じた。

(事務局) 実行委員は、もっと従事者を取り込んで、従事者たちが自ら取組みを考えるようなイメージでいるがいかがか。逆に負担になるのか。

(座長) 一般市民が参加を申し出た場合、受け入れるのか、関係者以外断るのか。こういったことが先々あるかもしれない。いろんな人が関われば、いろんなことができる。掲げるものは福祉のこの条例が基だが、他部局との連携であったり、同時開催であったりということも考えていった方がどんどん広がるし、その時に実行委員会はどういうものなのかというイメージを考えてみてもいいと思う。

(事務局) 市民自治の職員も入れようかと考えている。

(座長) 地域自治区の中で、住民の人たちが福祉について考えたり話したりすることができれば、地元の事業者や専門職の人と繋がることできる。

この条例は新城市の条例なので、新城市のどこの部局とでも、テーマが重なったときは一緒にできるといい。この推進会議について、2年目はもう少し冷静に進めていくことと、次へつなげていくやり方とあり方を考えながら進めて行くべき。

(事務局) 来月も引き続きご意見をお願いしたい。推進会議の形、実行委員の体制、事務局については、考えを示します。それから推進会議のメンバーについても、お引き受けいただけるのかお伺いしたいと思う。

以上